

ワークショップから生まれた<音>の作品

野村誠の《ピアノのための9つの小品「アーツ前橋」》は、2013年に開催された「プレイベント vol.21 前橋市収蔵美術展 はじまる道」の関連イベントのワークショップ「絵画 × 音楽」から生まれた作品である。

2013年10月の開館に先立ち、2010年からプレイベントとして、前橋市の収蔵作品の展示やワークショップ、トークなどを多数、行ってきた。「はじまる道」（2013年2～3月開催）は、笠木實《演奏者》、久保繁造《カサブランカ》、清水刀根《二人》、《舗道》、横堀角次郎《代々木風景》、近藤嘉男《タンプル区の老婆》、福田貂太郎《晩夏静寂》、倉田角次《春の玉川上水》、深谷徹《アルカンタラー橋》の9点の絵画作品による展覧会で、会場のミニギャラリー千代田は、開設準備の活動拠点のひとつであった。

野村誠を招き、この展覧会の関連企画として行ったのが、ワークショップ「絵画 × 音楽」である。作曲家、ピアニスト、鍵盤ハーモニカ奏者として活動する野村は、即興性や共同制作による手法を重視し、美術作家との協働も多い。収蔵作品への興味を引き出す試みとしての、美術と音楽というジャンルを超えたコラボレーションが、美術作品への新たなアプローチとなった。ワークショップの参加者は、各自が持ち寄った楽器や音の出るものを用いて、作品の線や色、形などを感じたままに音に置き換え、自由に奏でた。

その後、ワークショップでの演奏を録音し、その音をもとに野村が9つのピアノ曲を作曲、記譜したものをピアノ演奏して録音するというプロセスを経て作品化された。開館後、「音色を奏でる絵画たち」展（2015年）で初めて発表され、2020年には「聴く—共鳴する世界」展にも出品し、ピアノ演奏の録音と楽譜を絵画作品とともに展示し、それらを音で表現した曲を聞きながら絵画を鑑賞することで美術鑑賞の幅を広げる役割を果たした。

ワークショップから生まれた作品《ピアノのための9つの小品「アーツ前橋」》は、こうした当館との継続的な関りを背景に、2020年度に収蔵に至った。



ワークショップ「絵画 × 音楽」



「プレイベント vol.21 前橋市収蔵美術展 はじまる道」2013年